

町割りに、江戸時代末期から昭和前期の様々な種類の伝統的な建物が建ち並び、商家町でありながら、薬医門や板塀が目立つのも特徴です。



敷地の奥に建てられた土蔵は、平入りですが、通りに面したものは妻入り・平入り両方が見られます。外壁は、1階をささら子下見板張り、2階を白漆喰塗りとしています。 写真：川島家土蔵



真壁には本格的な洋館は現存していない。唯一の洋風建築である旧真壁郵便局は内外部に郵便局時代の面影を残したまま、街並み案内所として活用されています。

写真：旧真壁郵便局



戦国時代の終わりに真壁城の城下町として建設され、廃城後の江戸時代は町の中央に陣屋を置いた町並みが整備されました。江戸時代には、大坂や奈良、岡崎産の木綿を仕入れて了織市を開き、会津や米沢など東北、北関東の商人を集めて、大きく繁栄します。良質な水に恵まれて、酒造業も24軒を数えました。明治時代には製糸工場も建ち、石川業も興隆し、地域経済の中心地として繁栄を続けます。

「真壁町屋敷絵図」（江戸時代後期、個人蔵）



江戸時代末期から明治時代を中心而建てられた木造大壁造りの店舗で、外壁を土壁で厚く塗り込め、漆喰仕上げとした防火建築です。江戸の見世蔵形式を受け継いでいます。

写真：川嶋家見世蔵



大正時代を中心に建てられた伝統的な木造真壁造りの店舗で、後ろ側に平屋の住居が続きます。基本的に江戸の町屋形式です。

写真：旅籠ふるかわ
仲町休憩所



木造真壁造りの店舗のうち、2階の外壁を厚く土で塗り込め喰仕上げとしたものです。潮田家の塗屋は、真壁で最大の間口と梁を誇り、内部で襖蔵とつながっています。

写真：潮田家住宅



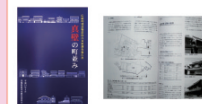
大正時代以降に導入され、外壁は大半が、1・2 階ともに石積みを現しています。石材は栃木県産の大谷石を主体に地元産の真壁石も見られます。

写真：村井醸造石蔵



二本の親柱の内側にそれぞれ控柱を立て、切妻屋根を乗せたものが典型的な薬医門です。真壁は商人町でありながら門や堀が多いことも特徴です。猪瀬家の薬医門は真壁最大です。 写真：猪瀬家薬医門

もっと詳しく知りたい方へ
伝建報告書「真壁の街並み」が
2,100 円で好評発売中！！



桜川市教育委員会